

- 葉菜類の生産者数は高齢化等により全般に減少している。また単収、出荷量、作付面積も減少傾向にある。
- 作型分化が不十分で品目により生産が不安定である。
- このため、新技術等導入による安定生産および、栽培面積の維持・拡大に向けた省力・低コスト化が求められている。
- 主要葉菜類の安定生産技術の確立と産地への導入がすすむことで、産地力強化が図られる。

### 普及活動の成果

#### 1. 新たな技術の確立数と導入産地

- 各品目毎に新たな技術を確立し産地へ導入。
  - ・ほうれんそう :ホウレンソウ萎凋病対策  
技術確立:H27、導入産地数:3地域(H28)
  - ・ねぎ :ハウス貯蔵技術  
技術確立:H28、導入産地数:3地域(H29)
  - ・キャベツ :冬どり作型  
技術確立:H29、導入産地数:3地域(H30)
  - ・春まきたまねぎ:春まき作型  
技術確立:H30、導入産地数:3地域(H30)

#### 2. 省力・低コスト技術の確立数と導入産地

- 省力・低コストにおける新たな技術を確立し産地へ導入。
  - ・ほうれんそう :生食用露地作型  
技術確立:H28、導入産地数:3地域(H29)
  - ・ほうれんそう :根切機等省力化技術  
技術確立:H28、導入産地数:3地域(H29)
  - ・ねぎ、キャベツ:低コスト施肥技術  
技術確立:H30、導入産地数:3地域(H30)



### 普及活動の特徴

- 中央農業改良普及センター軽米普及サブセンターが生産者、試験研究機関、関係機関との連携をコーディネートし、新技術に関する情報収集と共有化を図ることで、産地への導入と早期定着を図る。

- 中央農業改良普及センター県域普及グループ(農業革新支援センター)が生産者、営農指導員地域普及員対象の研修会を企画、運営することで新技術の効果的な普及を図る。

### 主な普及活動

#### (1) 調査研究、実証圃等による新技術の効果検証(H27~30)

- ほうれんそう:萎凋病対策
    - ・実証圃設置(県内5地域:H26~27)
    - ・「転炉スラグマニュアル」(H28)
  - キャベツ:冬どり作型
    - ・実証圃設置(県内5地域:H27)
    - ・「冬どりキャベツ栽培の手引」(H28)
  - ほうれんそう:自走式根切機
    - ・先行導入産地の情報収集(H27)
    - ・「自走式根切機導入マニュアル」(H28)
- <共通>
- ・各実証結果から効果と課題、普及上の注意点を整理しマニュアルに反映。
  - ・マニュアルを活用した新技術・作型の導入支援および導入状況確認。



#### (2) 新技術の効果的な普及(H27~H30)

- 技術対策部会・ネットワーク会議(H27~30)
  - ・主要品目産地の関係者対象に新技術に関する研修会を実施し情報の共有化を図り、地域での課題と対応策について検討(ほうれんそう4回、ねぎ4回他)



### 関係機関との連携

- 中央農業改良普及センター軽米普及サブセンターは、関係機関とのコーディネート、新技術の検証、現地導入事例の把握、マニュアル作成、研修会企画開催。
- 地域普及センターはJAと連携し、現地調査農家との調整、実証圃の設置、運営、情報収集を担い、新技術の導入・普及を推進。
- JA、市町村では新技術導入支援事業等の整備を担当。